発行所
三池炭鑛勞働組合
大牟田市不知火町
電話3033番
炭電 528 475番
編集兼発行人　平島敏治
三鉱勞組印刷工場
三鉱勞組機関紙

組織の拡大と強化

予算は厳正に執行せよ

昭和三十年度定期大会開催

三鉱勞組の昭和三十年度の行動を定める定期大会は五月二十四日午前九時より、本社の体育会館で開かれた。大会冒頭、三鉱勞組合唱団の指導により、民族独立行動隊の歌が合唱され、大会の空気は緊張の度を深めた。一般経過報告では、炭勞の賃闘、炭鉱合理化法案などの質疑がなされ、決算では綜合別途会計の使用についての執行部の手落の追求をはじめ、雄弁に至るまで綿密な検討と質疑がなされ諒解された。予算については行動方針と検討し、厳正な予算執行の要望が附せられて諒解。組合員の意見発表では三川の池田君が世界の勞働者と手を結べと力説決議、執行機関の代表挨拶後、再び合唱隊の指揮により平和の歌を合唱散会した。

三十年度は死活の闘い

大会は予定通り午前九時、定員八三一名に対し、五〇五名で概成、三鉱勞組の宣言で大会は開かれた。

宮川組合長挨拶

この一年間をふりかえつてみて充分反省しなければならない問題が沢山ある。それで三十年度の闘いを前進するためにこの総会でその点を充分審議して貰いたい。

昨年一年間に行われたあらゆる闘争は総てわれわれの生活と平和、権利を守るために終始したアメリカの従属国となつている日本の政治経済欺瞞の権利をもつているのが保守反動であるが上、われわれの生活が必ず良くなることはありえない。このためにあらゆる闘争を進めてきたが、皆さんの期待に充分沿い得なかつたが、三十年度こそわれわれの死活の闘いが展開されることは必至であろう。

そのためには組織の再検討をして話合う機会をつくり、徹底的に論議してその中から力づよい前進を見つけ出さねばならない

メッセージ

前炭婦協会長　五島　澄子
大地評会長　小宮市太郎
九炭勞事務局長　浦川　守
東庄支部長　畑渡　豪
新炭婦協会長　秋吉　米子
日本共産党　足立　忠澄

細谷市長挨拶

全国ただ一人の左派社会党の市長として当選出来たのは、三鉱勞組をはじめ大牟田の勞働者の皆さんの団結のたまものである。今後は二十万市民のために、力のある限り闘うので、勞働者の皆さんの支援をお願い致します。

石炭合理化法案は反対

一般経過報告は大会資料に基づいて河野書記長より、詳細に報告がなされ、質疑応答に入つた。

四山　さきに行つた特別生活対策を再びやるのか。

執行部　特別対策は、その当時も明確にいつた通り一回限りだ。

宮浦　炭勞の勞働プランは具体性がない。

執行部　炭勞大会では勞働プランについて小委員会をもつたが、一日や二日位の小委員会では具体的な問題も取出せないので、大会終了後、推進委員会を設けて、各地方、支部で具体的な指導を行うことを決めた。

宮浦　こんどの賃金闘争で調査給廃止の問題がボヤけたがどうなつたのか。

執行部　決して放棄したのではない。炭勞の内部腐勞として今次の賃金闘争で調査給廃止の線まで行く力がなかつたのだ。

港務　賃金闘争妥結のとき、中闘が居なかつたというのはもつてのほかだ。

執行部　中闘委員会で中闘が東京で交渉しない時、ウロウロしていては闘争は出来ないので、なるべく現地へ出向いて闘いの指導をなして闘いを盛り上げるべきであるし、妥結権は闘争の状態で執行部に一任することを中闘委で決定していた。

三川　炭鉱合理化法案について炭勞や総評はどうしようとしているのか。

執行部　炭勞大会では石炭合理化法案反対のスト権確立の投票をなして態勢を整えている。なお左社及び炭勞執行部は政府案に代る案を検討中であつて、これを広く総評や他の産業に持込む。

三作　住宅手当増額の問題でまだ解決していない支部があると聞くが、いつ解決するのか。

執行部　自家居住で社宅入居希望者のなかば未解決なところがあるが、次期執行部の確立後速かに行う。

その他生産、賃金妥結、行動方針などについて質問がなされた。

闘つて方針を打出す

役選は退場騒ぎで紛糾

八日間に亘る炭勞大会終る

炭勞大会の初日から四日目までは既報の通りであるが、五日目からは行動方針の討論で沈滞していた大会の空気が活気づいて来た六日目は各組小委員会をもつたので本会議は休会、七日目は小委員会の結論報告後、役選で大モメになり、ついに一日延期という格好にまつたが、これまた長時間に亘りもめつづけた。

第五日目

第五日目は前日に引きつづいて行動方針「組織を守る闘い」について討議されたが、居住区、職場での闘いの組織化が根本問題である。その上に立つて婦人の問題、あるいはサークル活動等の諸問題を出し、この組織化について具体的に検討する必要がある、ということで小委員会に附議、その他行動方針に対する主なる意見は

○全炭鉱の統一問題については、もつと突込んで検討すべきだ。

○脱退した組合に対しての対策が不充分である。もう少し親切さをもつて検討してもらいたい。

○世界労連、自由労連との関係についても明確さを欠いている。

○賃金闘争の組織化について、下部の地区労及び総評の強化について明確に出ていない。

○職級政党の統一育成強化の問題については、筋を通して組合の主体性をあきらかにして統一強化をはかるべきだ。

以上の意見を一括して小委員会に附託した。

機構は現行通り

三十年度の予算については、執行部より現行十六円の会費を二十円に値上げ案に対して九共闘、三井闘争費見合分として三円五十銭、財政再建費一円五十銭、計二十五円の値上げ案に対して、明治から値上げ反対、修正意見が出され小委員会に附託された方が充分でない。勞働プランについてもプラン倒れする危険が多分にある。真剣に研究して方針をたてるべきである。

○職級政党の統一育成強化の問題については、筋を通して組合の主体性をあきらかにして統一強化をはかるべきだ。

以上の意見を一括して小委員会に附託した。

機構は現行通り

三十年度の予算については、執行部より現行十六円の会費を二十円に値上げ案に対して九共闘、三井闘争費見合分として三円五十銭、財政再建費一円五十銭、計二十五円の値上げ案に対して、明治から値上げ反対、修正意見が出されたが、三件とも確認した。

総合事務所建設についての提案に対して時期尚早論もあつたが諒解、この問題に関して機構を修正（事務局をへらすか、へらさぬか）する、しないかを採決した結果、現行九六、へらす四二、保留一三で機構は現行通りという考え方で小委員会に附託した。

教宣　編集は統合

①教宣部　編集部の統合

②外局を統合し、本部役員とする

③救済規程の一部修正。

以上三件の規約改正の提案に対して教宣、編集の統合には若干異論が出たが、三件とも確認した。

会費は二十円

昭和三十年度予算に関して専門委員長より

山元の集計、大会の空気から削減する反面、組織の運営に支障があつてはならない、という前提で科目毎に討議したが、一昨日機構縮少は行わないという大会決定がなされたため、予算の半額を占める人件費の削減が不可能となり、従つて大巾の削減は出来なかつた。結論として、経常費、闘争費の二元化を否決

役選は大巾に修正

し、経常費、闘争費、財政再建費とした。金額は二五円の提案に対し二四円とし、救済費は五〇銭削り五円とした。

以上の小委員会の結論に対して討論の末これを諒解した。

道義的責任を感ず

高島問題に就ては専門委員長より炭婦協及炭勞全体にも迷惑があつたこと、その解決への方向を厳しく対して求めず、われ〳〵内部の統一と団結にひびの入らない解決を求めた結論に対して、これを諒解した。なお炭婦高野会長は解散的反要に聞かれたが小委員会の結論に感謝する。本問題については道義的責任を深く痛感している。本大会の結論、その精神を続く炭婦大会に生かし、その主旨に沿うよう努力したいさらにこれを契機に炭勞の統一と団結を固めるために微力を尽したい。

請負給廃止の闘い

行動方針については委員長より大会で出された意見をくみ入れ約二〇点の修正をなして提案された。その中で注視されるのは調査給廃止を具体的にすゝめるための考え方として

○調査給の廃止は調査給をやめて固定給にしろという形式的要求では出来ない。日常の実際行動の中で、一歩々々勝ちとる様にしなければならぬ。

○この闘いは現在統一した闘いになつていない。

という点をあげて一歩々々闘いをつみ上げて調査給を後退させる闘いをやらなければならない。その為、現在の調査給の保障給を一〇〇%に引上げる闘いを最底とする合理化反対闘争は実力をかけて広汎な闘いにする。そのためには進歩的文化人、一般市民との巾広い共闘の組織化を図る。

行動方針に基いて執行部及び大会に社会保障の闘い方について、社会保障を拡充するという考え方を執行部は努力してもらう。勞働プランの闘い方の推進について具体的内容を本大会に提案することは困難であるが、行動方針を具体化することによつて、これが進められるので行動方針をそういうふうに発展させてもらいたい。

機関紙を守る闘い方について、組合員一人々々の大衆闘争までもつていくべきに啓蒙指導をしてもらう以上の要項を含めて行動方針を修正確認した。

日鋼・中小鑛へカンパ

午后から日鋼室蘭、中小鉱カンパの提案がなされ、日鋼室蘭については一人二円づゝ五ケ月微収し、この中から一、〇五〇円融資している赤字の一部を消化する。三十億円の金組は長期闘争を行い中小の闘い方の基礎をきずいた。このことを炭勞の組織的な立場から判断し、組織的闘争を強化するためカンパをやるべきである。カンパの額はいまゝで二円を三月まで徴収していたのを五月まで延期する。取扱いは九州炭勞に任せる。

スト権確立する

最后に企業整備反対闘争ならびに石炭合理化反対闘争、期末闘争の三種の要約及び規約改正の無記名投票を行つた。

○企業整備、石炭合理化反対闘争

投票一九一　委任一八七　委任しない一　白紙三

○期末闘争

投票一九一　委任一八七　委任しない一　白紙三

○規約改正

投票一九三　委任一八五　委任しない八

以上でスト権を確立した。

役選で一日延期

役員改選に入り、午后六時で候補受付を終つたところ

局長　古賀（三池）漆原（三潟）

生産　中川、柏倉

〃　〃　藤岡（三池職）二五〇　二八　八

事務局長　古賀　定（三池労）九五　八二　九

事務局次長　漆原　光国（三潟労）九七　八一　八

総務部長　蓮坂　晃（雄別労）一三一　四九　七

財政部長　下見　弘法（上山田労）一六二　一五　一〇

教宣部長　黒田　光男（潜龍労）一四八　三三　六

教宣副部長　西影　時男（田川労）二一〇　五四　一三

法対部長　原田　力（宇部労）一四四　三六　六

調査部長　直江　利良（大正労）一五四　二九　四

組織部長　森谷　雅春（神威労）一三八　三七　二

生産部長　中川　盛光（三菱鯰労）一一四　六四　九

厚生部長　佐々木正男（底路労）一五二　二六　九

中対部長　渡辺　家次（好間労）一五二　二六　九

総評担当部長　石黒　清（砂川労）一三八　四〇　九

会計監査　佐藤　幸一（夕張労）一七〇　六　一

同　亀松（高萩労）一六八　六　二

堀原　健治（山陽労）一六八　七　二

山口　春次（飯野労）一六八　七　二

樋口　茂（高松労）一六九　八　一〇

役員改選をめぐり紛糾、大会を二日延期した。八日目は午后三時半に至つて調整を終り、直ちに選挙規程に基いて投票を行つた結果

役員改選（総投票数一七八）

中央執行委員長　阿部　竹松（大夕張労）一六六　一四　七

〃　副委員長　原　茂（平和労）一七三　一〇　四

〃　〃　藤岡　三男（三池職）二五〇　二八　八

〃　〃　古賀　定（三池労）九五　八二　九

〃　〃　漆原　光国（三潟労）九七　八一　八

〃　〃　蓮坂　晃（雄別労）一三一　四九　七

〃　〃　下見　弘法（上山田労）一六二　一五　一〇

〃　〃　黒田　光男（潜龍労）一四八　三三　六

〃　〃　西影　時男（田川労）二一〇　五四　一三

〃　〃　原田　力（宇部労）一四四　三六　六

〃　〃　直江　利良（大正労）一五四　二九　四

〃　〃　森谷　雅春（神威労）一三八　三七　二

〃　〃　中川　盛光（三菱鯰労）一一四　六四　九

〃　〃　佐々木正男（底路労）一五二　二六　九

〃　〃　渡辺　家次（好間労）一五二　二六　九

〃　〃　石黒　清（砂川労）一三八　四〇　九

〃　〃　佐藤　幸一（夕張労）一七〇　六　一

〃　〃　吉野　亀松（高萩労）一六八　六　二

〃　〃　堀原　健治（山陽労）一六八　七　二

〃　〃　山口　春次（飯野労）一六八　七　二

〃　〃　樋口　茂（高松労）一六九　八　一〇

信任　不信任　白紙

阿部氏委員長に再任

第八日目

役選改選をめぐり紛糾、大会を二日延期した。八日目は午后三時半に至つて調整を終り、直ちに選挙規程に基いて投票を行つた結果

役員改選（総投票数一七八）

中央執行委員長　阿部　竹松（大夕張労）一六六　一四　七

〃　副委員長　原　茂（平和労）一七三　一〇　四

〃　〃　藤岡　三男（三池職）二五〇　二八　八

〃　〃　古賀　定（三池労）九五　八二　九

〃　〃　漆原　光国（三潟労）九七　八一　八

〃　〃　蓮坂　晃（雄別労）一三一　四九　七

〃　〃　下見　弘法（上山田労）一六二　一五　一〇

〃　〃　黒田　光男（潜龍労）一四八　三三　六

〃　〃　西影　時男（田川労）二一〇　五四　一三

〃　〃　原田　力（宇部労）一四四　三六　六

〃　〃　直江　利良（大正労）一五四　二九　四

〃　〃　森谷　雅春（神威労）一三八　三七　二

〃　〃　中川　盛光（三菱鯰労）一一四　六四　九

〃　〃　佐々木正男（底路労）一五二　二六　九

〃　〃　渡辺　家次（好間労）一五二　二六　九

〃　〃　石黒　清（砂川労）一三八　四〇　九

〃　〃　佐藤　幸一（夕張労）一七〇　六　一

〃　〃　吉野　亀松（高萩労）一六八　六　二

〃　〃　堀原　健治（山陽労）一六八　七　二

〃　〃　山口　春次（飯野労）一六八　七　二

〃　〃　樋口　茂（高松労）一六九　八　一〇

信任　不信任　白紙

港務共済会が問題になる

決算報告では、さきの中央委員会で問題になつた、綜合別途会計中執行部の手落でバイク購入がなされたことについての質問や、港務支部の共済会についての質問がなされた。

三川　オートバイ（バイク）購入のいきさつについて。

執行部　綜合別途会計で予算を組み、諒解を得ていたものだという執行部の勘違いから大変迷惑をかけました。

実は共済会でバイクを買うという以前の二月に購入したものでこれまで調査部で困つていた自転車の車体が折れ、使えなくなつたので、広範囲にわたる地域から種々の情報を集めるため機動化することが希ましいので、本部役員会で検討した結果、自転車二台分位で賄えるならということで購入した。

港務　港務支部の共済会のことでいろいろ問題があるが、監査機関はどうやつたのか、問題のモミ消しを監事と執行部がグルになつたということを聞くが。

監査　監事としては帳簿の整理が出来ていなかつたので、指導員を派遣し、組合長にも報告している。

この港務支部共済会の問題は支部の機関で討議することになつた。別項掲載

話合つて行こう

予算については行動方針との関係について色々質問があつて、厳正なる予算の執行の要望があつて諒解。つゞいて組合員の意見発表に池田昭二君（三川）が次の要旨で述べた。

勞働組合運動を推進するには、よく話合つて行かねばならない先輩の宮川組合長の渡欧も、イタリーの勞働者諸君の豊い海外で招かれたのであつて、これも日本の勞働者と話合いたいためである。われわれは世界の勞働者と話合つて、勞働運動を進めねばならない。

三十四日の三鉱定期大会で港務所の生活対策貸付に関する問題を、港務所支部代議員会に附託することが決議された。

港務所支部ではこの決定に基づいて二十六日午後二時から港友クラブ支部代議員総会を開催して、この問題について討議した。問題の生活対策貸付について執行部の決算の時期が遅れた理由に対して、なるが故にという特権的な借受げ額の引きがが大きいため、執行部はつたかが決算機関や組合員全体の協力で乗り切ることが出来たことについて厚くお礼を申し上げる。三十年度も苦難な年であろうが、団結して乗り越えよう。と挨拶があり、合唱団の指揮で平和の歌をうたい、午後四時散会した。

生活対策で責任を感じ

港務支部執行部総辞職

港務支部執行部は、はげしく追及された。

さらに執行部自体が組合員よりも多額の生活対策貸を借りうけているという事実について厳しい追及が行われ、これに対し執行部からは貸付規程に基いて行つたということが解答をなされたが、現実問題として組合員と執行部の借入れた金額の引きが大きいため、執行部はなるが故にという特権的な借受げ額の引きが大きいため、執行部はなるが故にという特権的な借受げ額の引きが大きいため、執行部はなるが故にという特権的な借受げ